

area 3 宇治橋と御幸橋

15km

J・R・京阪宇治駅→観月橋→伏見→淀→御幸橋

コースガイド

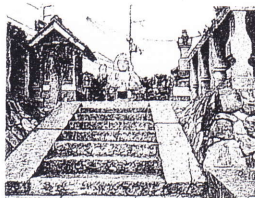
このコースでメインルートとして紹介しているのは川沿いを効率よく歩く道。左岸から歩きだし、観月橋で右岸に渡れば、ゴールの御幸橋までは全ルートが川沿いの道だ。ただし観月橋までは車道が続くので、少々歩きづらいかも。何かを見ながら歩きたい人は右岸側を行くといいたろう。注意したいのは桃山の山科川だ。右岸からはこの川を直接渡れず迂回を余儀なくされるので、これを避けたい人は隠元橋で左岸に渡っておこう。山科川沿いに宇治川に戻ってくると、前方に観月橋が見える。伏見へはこの橋付近から町に入るといい。酒蔵の町伏見はこのコース一番の目どころだ。

中書島から先、右岸の道は広く歩きやすくなるが、いささか殺風景な眺めが続く。左岸には茫洋たる巨椋池干拓地。伏見下水処理場辺りになると、千両松という名の町がある。昔、この辺りの川堤は大岡堤と呼ばれ、秀吉が築防のために植えた見事な松が続いていたというが、それに由来するのだらう。京都競馬場を過ぎればゴールまでもう一息。右折して町に入り淀城跡をみて帰るのもよし、もう少し川沿いを歩き、御幸橋を渡って八幡に出、ついでに徒然草の仁和寺の法師でおなじみの石清水八幡宮へ参拝して帰るのもまたいいだらう。

周辺ガイド

東屋観音

京阪宇治駅前の広場を出てすぐ左にひっそり現れる観音様。実は鎌倉時代につくられた聖観音菩薩像で、宇治市指定の文化財だ。もともとは今より南西にあったが、宇治橋の架けかえと道路拡幅工事にともない現在の場所に移転されたという。



菟道稚郎子皇子御墓

駅から右岸に出てすぐ、茶畑の向こうに見える。菟道稚郎子は応神天皇の皇子。優れていたため皇太子に任命されたが、自分より年長の兄大鷦鷯皇子（後の仁徳天皇）こそ皇位を継ぐべきだと思い悩んだ末、みずから命を絶つた悲運の人。世界文化遺産に登録されている宇治上神社の祭神の一人でもある。

木幡・許波多神社

隠元橋で左岸に渡らず進むなら、木幡経由で山科川を越えるのもいいだらう。実は一級河川・堂の川の一部という木幡池を過ぎ、京阪木幡駅近辺になると飲食店やコンビニもある。さらに東進すると、やがてお茶

の匂いが漂うとともに、創業350年という宇治茶の老舗松北園が見える。その北にある許波多神社は、神



のお告げを受けた皇極天皇が中臣鎌足に詔して建造させたもの。境内には宇治市名木百選に選ばれた樹高約22mのクスノキがある。

向島と巨椋池

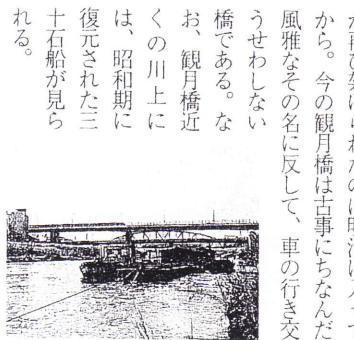
高層マンションの林立する向島二ユータウン。島と名に付くように、その昔、この辺りは巨椋の入江として古歌にも詠われた巨椋池に浮かぶ島にすぎなかった。

宇治から淀にかけて広がっていた巨椋池は、木津川・宇治川・桂川の三川が流れ込む遊水地で、周辺の集落には特権的な漁業権が与えられていた。しかし度重なる洪水とそれにとまぬ築堤や改修をくり返した末、明治期に池は川から分離され、昭和に入ると干拓され、現在は整然とした田園地帯となっている。

観月橋

国道24号が宇治川と交わる地点に架かる橋。この橋はもとと桂橋という名で、桃山丘陵南側にあった月見の名所。指月の森へ渡るための橋

であった。幕末の動乱で焼失した橋が再び架けられたのは明治に入ってから。今の観月橋は古事にちなんだ風雅なその名に反して、車の行き交うせわしない橋である。な



お、観月橋近くの川上には、昭和期に復元された三十三石船が見られる。

御香宮神社

近鉄伏見桃山駅前から東に鳥居が見える。御香宮という名は862年、境内に湧いた清泉が様々な奇跡を起こしたことに由来する。今日でもこの清水を汲みに行く人々の姿が絶えない。御香宮は鳥羽伏見の戦いで薩摩藩の陣営となったことでも有名。近年、拝殿と本殿が修復され、極彩色の彫刻がよみがえった。社務所奥の「小堀遠州ゆかりの石庭」も必見。



油掛地蔵（西岸寺）

その昔、転倒して油をこぼした山崎の油売りが、残りの油を地蔵に掛けて帰ったところ商売が急に繁盛し

たという言い伝えから、商人に信仰のあつい寺。ぬらりとにぶく黒光りするお地蔵様はちよつと独特。

月桂冠大倉記念館

1637年創業の月桂冠の資料館。明治時代の酒蔵を利用して、酒造りの工程を展示する。9時30分、16時30分、月曜休、300円。75・623・2056

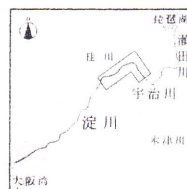
寺田屋



内紛で9名の薩摩藩士が命をおとした寺田屋騒動の舞台。そして坂本竜馬が幕府側に襲撃された場所として知られる。寺田屋は今も旅館として営業しているが、竜馬の好んだ梅の間や刀傷などの見学も可能だ。庭には寺田屋の女将お登勢を祀るお登勢明神や竜馬の像もある。捧げられた絵馬には竜馬への熱烈なメッセージがいっぱいだ。

宇治川派流・伏見港公園

宇治川派流は秀吉の伏見城築城にともなう建築資材運搬のために造られた。川沿いには酒蔵や宿屋が立ち並び、米や酒を運ぶ舟が行き交っていたという。現在でも柳に酒蔵の残





人々の憩い

ちようけんに

い竜宮門と土塀はその名残とか
淀城跡・与杼神社

京阪淀駅の

目の前。淀城
 というと淀君
 を思い浮かべ
 る人も多いだ
 ろうが、淀君
 ゆかりの城は
 ここより北の



た。新城は元和9年（1623）伏見城廢城にともない徳川二代將軍秀忠が築城させたもの。江戸期には濠を三重にめぐらせ、あたかも水に浮かぶ要塞のようであつたという。また城の西南と北の2カ所に設置さ

● 交通

起点..京阪またはJＲ宇治駅

終点..京阪八幡市駅まで徒歩5分

●問い合わせ

宇治市観光協会 ☎ 0774・23・3

334、伏見観光協会 ☎ 075・6

22.8750

れていた直径8mの水車は、「淀の川瀬の水車 誰を待つやらくくる」とと歌われ、淀名物の一つとなっていた。

与杵神社は城内の一角に立つ。もともとは淀より北の水垂みなたれにあつたが、明治期、淀川改修工事にともないここに移されたという。本殿の左方には、大坂の豪商淀屋が献納した燈籠がある。